

© 2001 Apple Computer, Inc.

Mac OS 9
Featuring Sherlock 2

Version 9.2.1

“きゅう”と“テン”。 ふたつの環境を用意して、 並走中です。

安定した出力を考えるなら…

制 作から出力まで、DTPの歴史を紡いできたMac OSの最終版 9.2は、業界標準環境として現役を続行中です。既存データの活用、確立されたフローにおける堅実な仕事、限られた時間内での間違いのないタスクの達成。そのような状況では、制作にも出力にも安定した環境、Mac OS 9.2で制作しています。

作 り終えた瞬間から、作品は「出力用データ」と呼ばれ、「印刷原稿」に転じます。出力できなければ意味がないデジタル・プリプレスの現場には、シンプルな構造の安定したデータが必要です。デザインデータから出稿データへ。漢字トーク7.0時代からの経験に基づいた、出力トラブルのないプロフェッショナルなデータをお届けしています。

は やくから注目していたOS 9とOS Xの関係。ドットワンでは、移行ではなく棲み分けを選択しました。OS 9とOS Xをそれぞれ独立したマシンにインストールし、併用態勢を整えました。また、ハードウェアの分離とは別に、業務内容も両OSにあったものを選択、提案するようにしています。“きゅう”と“テン”。ふたつの環境を用意して、さまざまな要望にお応えしています。

数年先までを考えるなら…

M ac OS Xが登場して5年。Version 4(10.4 Tiger)に到って、マシン、OS、ソフトの3要素が足並みをそろえ、制作現場から見ての「使える環境」となりました。新規制作はもちろん、数年先まで継続するフォーマットの作成や、Windowsデータとの連携、XMLを使った新しいワークフローの構築等をお考えの場合には、OS Xでの制作をお勧めします。

A dobeのCSを始め、ほとんどのアプリケーションは、OS X専用となりました。最新バージョンでは、DTPで最も重要な日本語組み版機能も、大きく変化したフォント環境に合わせて改良され、異体字等の字数が大きく増えたOpen Type Fontへの対応を謳っています。これらの新機能を活用するには、OS Xへの移行は避けられません。

C S+OTFの組み合わせで、これからのDTPをお勧めしています。また、マルチ言語OSの特徴として、多言語混在データが標準で制作できる点も見逃せません。例えば、中国語と日本語の混在するドキュメントも和欧混合文と同じ手軽さで制作が可能です。ドットワンでは、CS+OTFの組み合わせで、これからのDTPをお勧めしています。

